

所在地：群馬県高崎市

面積：72ha

構成員：44人

栽培品目：ホウレンソウ、キュウリ 他 60 品目

取組の紹介

【環境負荷低減に資する取組の推進】

- 1988 年に、農業者 3 名で無農薬、無化学肥料栽培への取組を開始。人材育成を通じて、構成員 44 名、72ha を営農する団体まで発展。
- 「土づくり」を栽培の基礎とし、家畜ふん尿（牛・豚・鶏）、茶粕、きのこ菌床、コーヒー粕など地元で手に入る資材を用いた堆肥を利用。堆肥製造に係る勉強会を開催し、堆肥の質の向上・平準化に取り組む。
- 全会員が参加する生産計画、ほ場準備から出荷に係る研修会を月 1～2 回（年 15 回）実施し、地域全体での技術を底上げすることで、ベテランの有機農業者は慣行と同程度の収量を、地域全体でも慣行比約 8 割の安定した生産を実現。



堆肥勉強会の様子

【人材確保・育成の取組の推進】

- 2003 年に市の補助により、倉渕地区に滞在型の研修施設を整備し、安心して生産から出荷調整まで学べる環境を整備。
- 新規就農者が多数参加する「新・農業人フェア」のブース出展や、オンラインでの就農相談会を開催し、関心を示した就農希望者に対する農業体験を実施（年間 4 回）することにより、人材の確保に積極的に取り組む。
- 研修中は、生産から出荷に係る技術に加え、農地や空き家の確保、地域住民との交流なども積極的に支援。
- 研修後も、研修生と受け入れ農家は親子のようなものと考え、新規就農者を頻繁に訪問し、孤立させないようフォローするとともに、販路開拓は会が担うことで、新規就農者が生産に集中できる環境を整備。これにより、農業経営に関する離農率ゼロを実現。
- 県内外の新規有機農家の受け入れ態勢を充実させることで、現在、構成員 44 名のうち半数以上が倉渕地区以外から倉渕に移住定住しており、地域ぐるみでワークライフバランスの充実を図りつつ、継続的な有機農業経営を実現。



農閑期の機械整備勉強会



滞在型研修施設

【安定出荷等の取組の推進】

- オイシックス・ラ・大地（株）等の販売事業者との契約に基づく計画生産により、安定した所得を確保。
- 会員の共同出資による予冷・集出荷施設を設置しており、野菜の鮮度維持を図りつつ、ロットの確保による効率的な出荷を実現。

HP・SNS 等

HP: <http://kusanoKai.main.jp/>

所在地：宮崎県都城市下川東
2丁目1号1番地

認証：JGAP

応募区分：個別経営の部

面積：460ha（延べ面積）

構成員：19名（同社農産部門の従業員数）

栽培品目：ほうれんそう、こまつな、えだまめ、さといも、にんじん、だいこん、ブロッコリー

取組の紹介

【GAPに取り組んだきっかけ】

- 昭和55年、野菜卸売業として創業。その後、冷凍野菜製造業に進出。契約農家の高齢化等による離農が相次ぎ、原料野菜の安定確保を目的に耕作放棄された農地の借地を進めて、現在、宮崎県都城市、鹿児島県曽於市下の計260haを借地。同社農産部門の従業員19名で、年間延べ460haで野菜を周年生産。「地域の農地を守る営農システム」を構築。
- 平成15年、農業生産法人として農業参入。同18年、エコファーマー認定を受ける等、環境負荷低減の取組を行ってきた。平成30年頃、取引先からGAP認証の紹介を受け、令和2年10月、ほうれんそう、こまつな、えだまめ等でJGAP認証を取得。

【GAPの継続に向けた取組】

- 社内で定期的にGAP勉強会を開催し、従業員のGAP営農レベルを維持、向上。
- GAPの取組等を記録し、社員間でリアルタイムに共有できる独自の営農管理アプリを自社開発。全ほ場にQRコード付きの看板を設置。従業員が作業の都度スマホで読み込むことで日時やほ場情報が自動入力され、作業進捗を本社で共有。その日の作業やほ場での注意事項（農薬のドリフト防止等）を従業員にスマホで指示。
- クレームの削減と、農福連携の取組として、収穫した葉物野菜の異物除去やほ場の除草を地域の就労継続支援B型事業所が請負。

【生産効率の向上に向けた取組とその効果】

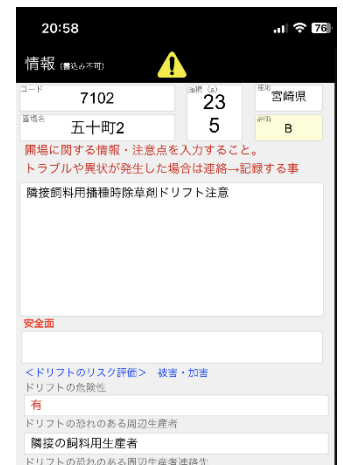
- GAPの取組の一つとして、化学分析担当の社員を置き、適正な土壌管理を実施。自社検査室での土壌分析、診断に基づいた「土づくり」を実施。特に硝酸態及び可給態窒素に留意し化学肥料の減肥を行い、積極的に有機質肥料を使用。全790ほ場の年1回診断を実施。生育の思わしくないほ場は頻度を上げて分析し改善。
- 全てのほ場で特別栽培農産物を生産。また、フィールドマンを置き、全ほ場での作物の生育や病害虫の発生、農薬散布を一元管理。
- 社内で情報管理・情報共有のデジタル化を進めたことで、従業員はその日の作業ほ場に直行し、直帰できるようになり、作業記帳等のための1日30分程度の労働時間削減を実現。

【波及効果】

- スイミー都城（都城市、三股町の雇用型経営体の経営改善活動のグループ）の活動に設立当初から参加し、地域や経営課題に取り組む中で、参加法人4社がスイミー設立後GAP認証を取得。



社内のGAP勉強会を定期的に行っている



従業員のスマホに表示されたGAPに関する内容の作業指示



自社開発した営農管理アプリで、ほ場QRコードをスマホに読み込み。



スイミー都城「女性農業者のためのトラクター講習会」

所在地：熊本県上益城郡御船町

面積：約60ha

構成員：50人

栽培品目：水稻、にんじん、たまねぎ 他

取組の紹介

【環境負荷低減に資する取組の推進】

- 1985年に、「くまもと有機の会」を設立。現在、経営する約60haの全ほ場で有機農業に取り組む。そのうち、43haで有機JAS認証を取得。
- 100種類を超える露地野菜を地域の標高差を活用して栽培し周年を通じて販売。2022年の売上は農産物・農産加工品なども含め、約3億2,000万円。
- 土壌分析に基づく土づくりを行うため、土壌分析室を設置（2010年）し、窒素、リン酸、カリ、pH、EC、微量元素を分析。年間 80 件以上の検体を分析し、会員の経験則と蓄積したデータに基づく地域・品目に応じた適切な施肥設計を行うとともに、馬ふん堆肥、竹チップパウダーなどの地域資源を活用した土づくりを実施。

また、生産物の栄養素分析も行い、その結果を施肥設計にフィードバックすることで、生産物の品質向上につなげており、「農産物の栄養価・食味コンテスト」（徳島県開催）で最優秀賞（4回）優秀賞（2回）を受賞するなど、環境負荷低減と品質向上につながる取組を実践。



竹チップパウダーの利用



野菜セット

【安定出荷・販路拡大に向けた取組】

- 県内の有機農業者が連携し、関東、関西、中部の消費地への共同輸送を実施。一般の運送便で掛かるコストの約5割を削減。
- 資材や燃料の使用を抑えられる露地栽培を基本とするとともに、県内での配達時の段ボールや発泡スチロール箱はほぼ100%回収、次回配達に使い、廃棄資材を削減。
- 契約購入を行う消費者「虹の会：454名」との意見交換や、その意見を生産活動へフィードバックするとともに、交流の場として、田植え稲刈り交流、消費者向け有機農業講座、県内子供食堂（2018年より毎週）への継続的な食材提供を実施。
- 有機米を原料にした有機玄米餅や有機発芽玄米等の加工品を開発し、県外の生協へ出荷。



回収・再利用しているダンボール

HP・SNS等

HP：<https://kumamotoyukinokai.jimdofree.com>

所在地：宮崎県児湯郡新富町

面積：6 ha

構成員：4人

栽培品目：水稲、にんじん、ばれいしょ 他

取組の紹介

【環境負荷低減に資する取組の推進】

- 2003年から有機農業を開始し、現在は、経営ほ場16haの6 haで有機農業を実施。
- 水稲及び野菜の田畑輪換を行う2 haで地下水位制御システム（FOEAS）を整備するとともに、土壌分析に基づく、豚ふんや魚かすなどの有機資源を活用した土づくりを行い、慣行比9割の収量を実現。
- 有機水稲生産では、通常2回行う代かきを3回実施し、深水管理や2回のチェーン除草を組み合わせた抑草を実践。
- この他、地域の未利用資源の利用に向けて、2022年からバイオマス消化液を試行的に施用。従来の有機質肥料に消化液を併用することで、資材コストの約5割削減（収支は約3割プラス）となる見込みであり、2023年には本格実施を予定するなど、収益性の高い有機農業の実現に向けて新しい取組に挑戦。



有機米ほ場

【効率的な生産体制に向けた取組の推進】

- 慣行から有機農業への転換に合わせて、生産ほ場を集約化し、規模拡大を図るとともに、効率的な有機農業を実践。（1区画：2 ha及び3.5 ha）



輸出用にパッケージされた有機米

【安定出荷・販路拡大に向けた取組】

- 2020年に有機米の輸出を目指しASIAGAPを取得。2021年から台湾に輸出（600kg）を開始し、2022年には輸出量を約1 tまで倍増。これにより、1,000円/kg（粗収益ベース）を確保。
- 販路の多角化に向けては、2021年から県内加工業者と連携した商品（「箸で切れる餅」、「冷めても柔らかいお餅」）を開発し販売するとともに、同法人が経営する「おにぎり屋」で有機米を加工・販売し、地域住民など消費者に対する有機農業への理解醸成にも取り組む。



箸で切れるもち（お箸ほぐれシリーズ）

HP・SNS等

HP：<https://www.organicfarmzero.com/>

養老牛山本牧場

有機農業・環境
保全型農業部門

畜産局長賞

所在地：北海道標津郡中標津町

面積：45ha

構成員：10人

飼養頭数：乳用牛 36 頭

取組の紹介

【環境負荷低減に資する取組の推進】

- 2002 年就農。有機肥料及び有機飼料を活用し、放牧利用を重視した持続的な資源循環型の酪農経営を実施。
- 飼料を含め、外部資材と化石燃料を極力使用しない放牧方式により、資材価格の影響を受けない安定した経営を実現するとともに、生産コストの低減、安全性の確保、乳牛の運動機能と採食機能を十分に生かした効率的な生産を実践。
- 有機 JAS（飼料、畜産物、加工食品）、放牧畜産実践牧場及び放牧酪農牛乳生産基準の認証を取得。



放牧の様子

【6次産業化の取組の推進】

- 2009 年、牧場内に加工場を建設し牛乳販売を開始。
- 2015 年、牧場内にソフトクリームショップ「ミルククリーム」を開設し、地域内外の消費者に安全な乳製品を提供。
- 2019 年、東京都調布市に宅配を行う牛乳販売直営店を開業。牛乳販売量が順調に増加することと比例し、消費者から「有機 JAS 認証」を求める声が多くなり、JAS の認証取得のきっかけとなった。



有機牛乳

【消費に関する取組の推進】

- 地域内外の異業種交流に早くから取り組みけん引的役割を果たす。
- 積極的な情報発信による牛乳・乳製品の販路確保に努め、固定した消費者を確保するなど安定した販路を開拓。
- オーガニックファームフェスタでの情報伝達を実施。SDGs の推進のための協議会を組織して学生等への啓発にも取り組む。



ミルククリーム

HP・SNS 等

HP: <https://wildmilk.jp/>

イノチオみらい株式会社

農産局長賞

所在地：愛知県豊橋市新西浜町1
(イノチオファーム豊橋)

認証：GLOBALG. A. P.

応募区分：個別経営の部

面積：3.9ha（栽培棟 3.6ha）

構成員：65名

栽培品目：ミニトマト

取組の紹介

【GAPに取り組んだきっかけ】

- 農林水産省補助事業「平成27年度次世代施設園芸導入加速化支援事業」を活用して、多連棟式の高軒高ハウス（3.6ha）を整備。独自の施設園芸の栽培技術の確立とその普及、生産した農作物の販売の安定、輸出も視野に入れた取組を行う中で、GAP認証の必要性を感じ、平成29年4月、ミニトマトでGLOBALG. A. P. 認証を取得。



イノチオファーム豊橋の全景

【GAPの継続に向けた取組】

- 従業員全員が農業未経験者。OJTの充実を図りつつ、自社でGAP運営管理の規程集を作成し、社内で運用するとともに、GAPや収穫物の衛生管理の講習を定期的実施。
- 当初は全ての農作業を紙媒体で管理していたが、農作業向けの労務管理アプリを導入し、社全体で1,000h/年の労働時間を削減。
- ユーザーからのクレーム（裂果等）があった際には対応票に記入し、原因追及から改善まで行うことにより、社員の品質管理の意識が向上。クレーム率が令和2年度0.43%から同3年度0.21%と大きく減少。



自社で作成したGAP運営管理規程

【生産効率の向上に向けた取組とその効果】

- 廃液中のリン含有量を抑えるため、リンの施用量を慣行比2割削減し、削減前と同等の生育量を確保。
- 隣接する下水処理場の放流水熱の利用や、生育が促進される時間帯に限定した炭酸ガス施用等により、トマト1kgの生産で発生するCO₂排出量（重油・電気等をCO₂換算）が令和3年度1.94kg/kgと5年間で約6割削減。
- GAP認証を取得したことで、地域にある大手スーパーへの販路が拡大。そのスーパーに年間200tのGAP認証のミニトマトを新たに出荷。そのほか、海外輸出先の開拓にも取り組む。
- 農福連携に取り組み、複数の障がい者が生産、出荷に係る業務を実施。



小売店舗内に並ぶ、イノチオみらい（株）が生産したミニトマト

【地域への波及効果】

- 農業法人を含む民間企業、公的機関、教育機関等からの研修を積極的に受け入れ（2022年度400名以上）、GAPやSDGsの取組を紹介。



店頭での説明用POP

所在地：熊本県熊本市中央区

上通町 8-14

認証：GLOBALG. A. P.

応募区分：個別経営の部

面積：3ha

構成員：25名

栽培品目：ミニトマト

取組の紹介

【GAPに取り組んだきっかけ】

- 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の食材調達基準に GAP が採用されたことがきっかけ。平成 30 年 5 月、ミニトマトで GLOBALG. A. P. 認証を取得した。

【GAP の継続に向けた取組】

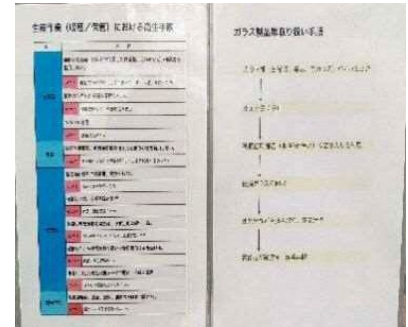
- 従業員の 8 割が農業未経験者であり、理解しやすい農作業マニュアルを作成。効率的な農作業の習得を図るとともに、全従業員を対象に GAP 研修会を定期的に実施。
- 半年ごとのアルバイトとの意見交換や、全従業員を対象にした年 1 回のカイゼンアンケートを行い、農林水産省「女性の就農環境改善事業」を活用した男女別のトイレや休憩室の設置など、これまでに 100 件以上の業務改善を実施。
- 作業状況等に応じて県下 3 か所の農場間で人繰りを行う等柔軟な勤務体制を構築し、従業員の急な休暇にも対応可能な働きやすい職場を実現。

【生産効率の向上に向けた取組とその効果】

- GAP 認証のミニトマトの安定生産を行うことで全国への周年安定出荷を確立。法人としての利益率（売上高の中に占める利益率）が 10% となった。
- GAP の取組の一つとして、天敵製剤や防虫ファン、粘着トラップなど IPM を積極的に導入し、農薬費を約 5%、農薬散布回数を約 3 割削減するとともに、ミスト機器を用いて農薬散布を無人化し、従業員の暴露にも配慮。

【波及効果】

- ミニトマトの効率的な生産とともに効果的な販売方法の検討を行い、様々な種類のミニトマトを化粧箱に詰めた贈答品を開発しネット販売。ふるさと納税の返礼品にも選定。
- 地元の農業高校生徒等の視察、勉強会を定期的に受け入れ。社をあげて GAP の取組を紹介。



自社で作成した、農作業マニュアル



社内に整備した休憩室



カラフルミニトマトの贈答品



地元農業高校の視察受け入れ

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校

農産局長賞

所在地：新潟県村上市飯野桜ヶ丘
10番25号

認証：GLOBALG. A. P.
応募区分：人材育成の部

面積：約0.5ha（田）、約0.3ha（畑）
構成員：46名
栽培品目：米、えだまめ

取組の紹介

【GAPに取り組んだきっかけ】

- 令和2年、学校を挙げて地域農業の実態を調査していく中で、高齢化の進展、農作業事故の実態を把握。同校生徒が住む集落でのトラクターの横転による高齢農業者の死亡事故をきっかけに、農作業の安全確保、誰もが参入できる農業を目指してGAPの学習を開始。生徒が中心となって、令和3年10月に米で、同4年10月にえだまめでGLOBALG. A. P. 認証を取得。

【GAPの継続に向けた取組】

- 「農作業事故ゼロプロジェクト」を校内に立ち上げ、農作業安全の専門家等の指導を受けながらGAPの知識を生かしたアンケートを作成し、地域の農業者を対象に調査を実施。アンケートシート570枚以上を回収し「GAPで救える命がある」を取りまとめ。
- 生徒一人一人に導入されているタブレット端末の営農管理ソフトウェアを活用し、生徒が作業記録を入力し、生徒、教職員間で作業の進捗状況をリアルタイムに共有。
- 生徒にGAPを導入していくための指導を行い、農場実習において、生徒間でGAPの取組のスムーズな引き継ぎが行われるよう、3年生と2年生の農場実習の時間が重なるよう時間割を調整し、3年生のGAPに基づく農場内での行動を2年生が身近で習得できるよう配慮。

【生産効率の向上に向けた取組とその効果】

- GAP認証を取得し、GAPの取組を進める中で、生育を安定させるためにIPMに取り組み、新潟県のIPM実践指標を活用した栽培管理や、地域の病害虫発生予察情報を確認し、ほ場の病害虫の発生状況をモニタリングすることで、慣行比で農薬散布量（成分量換算）を約2割削減。
- GAPの取組の一つとして、散布した農薬のドリフトを抑えるため、気象観測装置を新たに導入し、風速3m/s以上の時は農薬等の散布を行わないことを徹底。また散布前24時間の降雨量5mm以上を灌水しない目安としている。

【波及効果】

- 同校で生産されたお米「岩船産コシヒカリ」が村上市のふるさと納税の返礼品に採用。
- 「GAPで救える命がある」を学校の学園祭やJAの生産部会、GAPの国際会議等で発表し、成果の普及に努める。



「GAPで救える命がある」報告、巻頭ページ



同校生徒によるアンケート調査の様子



村上市が、同校で生産されたお米をふるさと納税の返礼品に採用。



同校生徒が「令和4年度農作業安全ポスターデザインコンテスト」で農林水産大臣賞を受賞。